

ホールセール部門 (三井住友銀行)

主に国内の大企業・中堅企業のお客さまに対し、資金調達、運用、ヘッジ、決済等に関連したサービスに加え、海外進出支援やM&A、企業再生・再編のアドバイザー等、様々なソリューションを提供しています。

2016年度上期は、マイナス金利政策の影響もあり、ホールセールビジネスを取り巻く環境は厳しい状況が続きましたが、お客さまの経営課題に対し、SMFGの各社と連携して最適なソリューションを提供してきた結果、海外進出に絡んだクロスボーダー M&A ファイナンス、不動産ファイナンス等による増益を実現し、連結粗利益は前年同期比137億円増の3,420億円、連結業務純益は前年同期比135億円増の1,978億円となりました。

リテール部門 (三井住友銀行)

主に国内の個人および中小企業のお客さまの金融ニーズにお応えすべく、ローン、運用、保険といった商品の提供や、相続や事業承継のサポートに力を注いでいます。

2016年度上期は、引き続きお借入、運用、保険など、お客さまへのサービス向上に取り組み、なかでもお客さまのニーズに合った運用商品や外貨預金の提供に注力した結果、運用商品残高は、前年度末比約4,011億円増加の約10兆397億円となりました。一方でマイナス金利政策や、英国の国民投票でEU離脱派が勝利したこと等のマーケット環境の変化の影響等により、連結粗利益は前年同期比91億円減の2,248億円、連結業務純益は前年同期比112億円減の340億円となりました。

国際部門 (三井住友銀行)

グローバルネットワークを活用して、主に海外で事業を展開している企業、あるいは海外から日本に進出している企業のお客さまの多様なニーズにお応えし、SMFGの成長ドライバーとしての役割を担っています。

2016年度上期は、足許の環境変化に対応した機動的なポートフォリオ運営により、航空機・貨車リースやサブスクリプションファイナンスなど、当社が強みを有するビジネスに積極的に取り組んだほか、お客さまとのビジネスでは、証券、デリバティブ等の付帯取引を推進しました。また、外貨調達コストには留意しつつ、調達安定化の観点から引き続き預金増強に取り組んだ結果、海外顧客性預金は過去最高を更新しました。これらの結果、連結粗利益は前年同期比67億円増の2,762億円、連結業務純益も前年同期比14億円増の1,629億円となりました。

市場営業部門 (三井住友銀行)

資金、為替、債券、デリバティブといったマーケット取引を通じたお客さまへのサービスのほか、銀行のバランスシートをコントロールするバンキング業務や、市場性商品の売買を行うトレーディング業務を行っています。

2016年度上期は、グローバルにマーケットの不透明感が高まる局面もありましたが、米国連銀による緩和スタンスの継続が市場のコンセンサスとなったこと等で、不透明感は徐々に解消へ向かいました。このような環境下、市場営業部門では金利低下局面を捉えたオペレーション等により収益を捕捉しました。また、お客さまからの預金の増加やTLAC債の発行等を通じ安定的な外貨調達を実現しました。これらの結果、連結粗利益は前年同期比621億円減の1,782億円、連結業務純益は前年同期比609億円減の1,607億円となりました。

三井住友ファイナンス&リース

国内トップクラスの総合リース会社として、国内外の企業のお客さまに対し、設備投資や財務面における経営課題の解決に資する金融商品やサービスを提供しています。

2016年度上期は、契約実行高が9,846億円、連結営業資産残高が4兆6,075億円となりました。国内のリース需要は設備投資の持ち直しが続いたこともあり、底堅く推移していることに加え、当社は米国・General Electricグループから、日本GE合同会社(現SMFLキャピタル株式会社)を子会社化し、国内の事業基盤を一層強化しました。これらの結果、連結粗利益は前年同期比71億円増の787億円、連結業務純益は前年同期比24億円増の441億円となりました。

SMBC日興証券(2018年にSMBCフレンド証券と合併予定)

国内有数の総合証券会社として、リテール、ホールセール両分野において、三井住友銀行と連携し高度な金融サービスを提供しています。

2016年度上期は、リテール業務では、期初より軟調な株式相場が続いたことから、投資信託販売や株式委託売買が減少しました。一方、ホールセール業務では、マイナス金利環境下のお客さまの資金調達ニーズを捉え、債券引受ビジネスが好調となり、国内リーグテーブルでは3位(前年度5位)に上昇しました。また、海外でも銀証連携による債券引受業務を拡大しています。これらの結果、連結粗利益は前年同期比143億円減の1,592億円、連結業務純益は前年同期比110億円減の321億円となりました。

コンシューマーファイナンス・カード

三井住友カード、セディナ、SMBCコンシューマーファイナンスを中心にクレジットカード業務、信販業務、消費者金融業務を展開しています。

2016年度上期は、三井住友カードではキャッシュレス化の一段の進展と訪日外国人消費の着実な取り込みにより、カード取扱高を引き続き拡大しました。セディナでは、カード新規会員獲得が順調に推移し、信販取扱高もオート、リフォームローンを中心に確実に増やしました。SMBCコンシューマーファイナンスでは、貸倒費用のコントロールを進めながら無担保ローン残高、保証残高を堅調に積み上げました。これらの結果、3社合計の連結粗利益は前年同期比125億円増の3,111億円、連結業務純益は前年同期比17億円増の1,110億円となりました。